

大和町農業委員会委員の推薦及び応募の状況(5月8日現在)

1 個人による推薦

(届出順)

番号	推 薦 を 受 け た 者							推 薦 を す る 者						
	氏 名	年 齢	性 別	職 業	経 歴	農業経営の概況	認定農業者等の該当の有無	氏 名	年 齢	性 別	職 業	推薦する理由	農地利用最適化推進委員への推薦	
4	佐藤 和彦	55	男	農業	農業委員 平成26年7月20日～	・営農類型 水稻 ・耕作面積 自作地 437a 借 地 123a	有	宮澤 光夫 高橋 勝彦 門間 榮喜雄	72 70 67	男 男 男	農業 農業 農業	農業者の高齢化により後継者不足が進む中、認定農業者として近隣地区の田畑を守り、熱心に農業に取り組んでいます。また、広域でのそば栽培を役員として取り組み、地域振興や農地集積にも積極的です。 以上の理由により、農業委員に推薦します。	無	
5	小野 一郎	66	男	農業	富谷北部土地改良区 総代 令和元年6月1日～ 黒川森林組合総代 令和2年3月1日～	・営農類型 水稻, 路地野菜, 施設野菜 ・耕作面積 自作地 184.9a 借 地 0a	無	小川 実 山田 正敏 平野 宏	71 67 65	男 男 男	農業 会社員 農業	長年地方公務員として勤務、退職後富谷北部土地改良区の総代、黒川森林組合の総代として地域の発展に貢献しています。また、地区においては町内会の役員としても尽力しています。温厚誠実な人柄で物事に対する実行力もあり地区民からの信頼も高くなっております。健康面も不安なく、活動に支障はありません。 以上のことから積極的な活動が期待でき、農業委員として適任であり、推薦いたします。	無	

大和町農業委員会委員の推薦及び応募の状況(5月8日現在)

2 法人・団体による推薦

(届出順)

番号	推 薦 を 受 け た 者							推 薦 を す る 者						
	氏 名	年 齢	性 別	職 業	経 歴	農業経営の概況	認定農業者等の該当の有無	法人・団体等の名称及び代表者氏名	目 的	構成員の人数	構成員たる資格	その他の当該推薦をする者の性格を明らかにする事項	推薦する理由	農地利用最適化推進委員への推薦
2	残間 洋一	71	男	農業	農業委員 令和2年7月20日～ あさひな農業協同組合理事 平成20年6月～平成29年6月	・営農類型 水稻 ・耕作面積 自作地 244a 借 地 40a	無	中屋敷生産組合 組合長 小野 正春	水田を中心とした土地利用型農業の効率的な生産を図るとともに、共同利用等による機械の効率的な利用等を図り、作物の品質・生産性の向上により組合員共同の利益を増進する。	20人	地域内で農地を保有する者	集落単位で農業者が組織する任意団体	生産組合立ち上げに積極的に関わり、生産組合設立後は中心メンバーとして生産組合運営を牽引し事業運営に貢献しており、また農協理事を3期務め農業情勢にも精通していて地域農業発展にも尽力して頂いているので、農業委員として適任である。	無
3	藤原 政由	66	男	会社員	農地利用最適化推進委員 令和2年7月20日～	・営農類型 水稻, 路地野菜, ・耕作面積 自作地 10a	無	JA新みやぎあさひな地区実行組合長会 大和支部 代表者 穴戸 幸市		9人	吉岡地区実行組合長		現在、吉岡地区実行組合長会会計及び農業共済部長会会長を務めながら大和町農地利用最適化推進委員として活躍しているところですが、今後は農業委員としての活躍を期待し推薦する。	無
9	鈴木 一成	64	男	農業	農業委員 令和2年7月20日～	・営農類型 水稻 ・耕作面積 自作地 729.0a 借 地 0a	有	蒜袋生産組合 組合長 鈴木 浩幸	生産技術及び経営の改善を図り、組合員相互の利益を増進させる。	24人	蒜袋地区内農業者、農地所有者	転作作物の栽培協定および共同作業の実施 機械施設の共同利用及び管理の実施 その他組合の目的達成に必要な事項の実施	本人は、当蒜袋地区で中心的な存在として農業経営をしており、他の組合員から信頼を得ています。また、認定農業者として、農地の利用集積、集約化について、自ら規模拡大を実践しており、農業の見識も豊富で、大和町の農業の発展に大きく貢献できる方だと思い推薦いたします。	無

大和町農業委員会委員の推薦及び応募の状況(5月8日現在)

3 個人による応募

(届出順)

番号	氏 名	年 齢	性 別	職 業	経 歴	農業経営の概況	認定農業者等の該当の有無	応 募 の 理 由	農地利用最適化推進委員への応募
1	赤間 良一	64	男	農業	農業委員 平成23年7月20日～ 富谷北部土地改良区理事 令和元年6月3日～	・営農類型 水稻 ・耕作面積 自作地 14a 借 地 5,900a	有	悲しい争いが起きて1年が過ぎても収束の目途が見えず、ロシアとウクライナの争いは対岸の火事ではなく我々農業者に多大な影響を及ぼし、肥料や燃料の価格高騰が農家を直撃している。家族経営の農家においては、高齢化と後継者問題が深刻化し、米価の下落が拍車をかけ離農する農家が増えている中、相談役と受け皿になり未来の明るい農業の力になりたい。三期の経験を活かし微力ながら頑張りたい。	無
2	鶉橋 祥幸	57	男	農業	農業委員 令和2年7月20日～ 農地利用最適化推進委員 平成29年7月21日～ 令和2年7月19日	・営農類型 水稻 路地栽培 ・耕作面積 自作地 451a 借 地 228a	有	近年の米価の下落や燃料、生産資材の高騰により農業を取り巻く情勢はより一層厳しさを増したと思います。 人口減少や農村の担い手不足が加速する中、農地の集積、集約化を進め作業効率の向上を図り、担い手が安心して生産コストを削減できる環境を整えることは、大切な作業です。また、使い切れない農地が増えつつある今、耕作放棄になりやすい条件不利の農地の有効的な利用方法を探り、解決策を検討することも必要な事です。 そのためには、地域と農業委員が一体となり関係機関とも連携して地域農業の未来を考えて行くべきだと考えます。 これまで3年間の農業委員としての活動経験を糧に、地域農業の維持発展のため、パイプ役として役割と責任を果たしながら農地利用の最適化を推進して参りたいと思い再度応募いたします。	無
6	文屋 芳光	73	男	農業	農業委員 平成17年7月20日～	・営農類型 水稻 農作業受託 ・耕作面積 自作地 234.8a 借 地 656.3a	有	近年ほど農業を取り巻く状況が厳しく深刻な状況に置かれたことはないと思います。 慣性的な農業従事者の減少と高齢化の進行はもとより、ロシアのウクライナ侵攻等により世界市場は重大な危機の中にあり、国内においてはすべての物価が高騰している。 最も懸念されるのが、自給率不足に伴う食料品の価格高騰である。食料安全保障の観点からも国内の食を支える農業がいかに重要な産業であるかを国民の理解を得る時期と捉えるべきであります。 さまざまな農業関連法が改正される中で、私共農業委員会に課せられた役割が大変多くなりました。特に従来の「人・農地プラン」が、5年後、10年後の農地利用を明確化する「地域計画」の策定が法定化され、令和7年3月まで地域の実情、実態に即した策定をすることとなりました。 農家の皆さんの努力により守り続けてきた農地。大和町でも取り組んでいる田んぼダムに見られる多面的機能を発揮する農地。農業農村の礎である農地。農業農村の原風景を守り続け、次の世代にしっかりと引き継いでいけるよう、地域の課題解決と合わせ、適切な農地利用の実質化にしっかりと取り組んでまいります。	無

番号	氏 名	年 齢	性 別	職 業	経 歴	農業経営の概況	認定農業 者等の該 当の有無	応 募 の 理 由	農地利用最 適化推進委 員への応募
8	高橋 淳	67	男	農業	農業委員 平成14年7月20日～	・営農類型 水稻 路地野菜 農作業受託 ・耕作面積 自作地 257.5a 借 地 353.4a	有	新たな農業基本計画が策定、実行されている中で、農業経営基盤強化促進法等の一部が改正され、これまで取り組んできた「人・農地プラン」が「地域計画」と名称を変え、より実用的となるよう法定化された。特にこれに向けた達成には農地バンクの積極的な活用を促すことや、「農業を担う者」の確保育成に関する事項も追加となり、農業経営、就農支援を行う対象者など多様的にも支援の幅が広がった。 このように農業委員会としての活動が増える中に於いても常にその活動の見える化ということに留意していきたい。 ここ数年、農地の減少傾向は増加しているが、生産基盤の維持強化は欠かせないものであって、その原点となるものは、人と農地をどう確保、有効利用していくかということであり、地域の話し合いなど人々の意見、動向、さらには、行政との連携をとりながら職務を果たしていきたいと思います。	無
10	曾根 秀子	71	女	無職			無	私は、42年間勤務した職場を60歳で定年退職をしました。それから10年が経過し現在は婦人会、ボランティアなど地域福祉活動をしながら人と人との繋がりを大切に、誰もが心豊かに楽しく生活できるよう、余暇をボランティア活動に生かしております。 今回農業委員の募集期間の延長について目にしました。募集内容や募集方法を見て年齢制限がなく、ただ農業に従事していないことが条件でした。 71歳になる私が申込みするのにとてもとても度胸のいることですが、豊かな自然と元気な暮らしが広がる大和町のために微力ながらも貢献したいと思い応募しました。	無